寺社を巡る会

活　動　記　録　書

開 催 日： 平成２９年１０月５日（木）　曇	開催テーマ： 日蓮聖人と法華経
開催場所： 小町・大町	記 入 者： 横山 美智男

参加人数：寺社を巡る会会員	男　２８名	女　７名	計　３５名
ビジター	男　　０名	女　０名	計　　０名
合　　計			３５名

実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題　など）：

コース：きらら鎌倉⇒本覚寺（開扉）⇒妙本寺⇒常栄寺⇒妙法寺⇒大町ふれあい会館（昼食）⇒安国論寺⇒長勝寺（解散）

きらら鎌倉前に集合したのち、まず本覚寺を訪ねる。この地には源頼朝が鬼門方向の鎮守として建てた夷堂があった。日蓮が一時夷堂に住み辻説法を行ったところでもある。室町時代に日出は足利持氏に処刑されそうになったが、持氏の夢枕に夷のお告げがあり許されたといわれる。持氏はこのことから夷堂があったところに本堂を建て寄進した。本堂は開扉されており入口から内部を窺うことができた。二代目住職の日朝が日蓮の遺骨を見延山久遠寺から当寺に分骨したので、東身延とも呼ばれる。境内の夷堂は恵比寿が祀られ、正月の鎌倉恵比寿はひときわ賑やかとなる。

次は比企谷にある妙本寺へ。二天門に向かう参道は杉林に囲まれ静寂かつ厳粛な雰囲気である。天保 11 年(1840)に建立されたとされる二天門は、数年前に保存修理が施され弁柄色の朱が美しい。龍の彫刻の下で手を打つと龍が鳴くと言われて試みたが、鳴いたようでもあり鳴かなかったようでもある。

源頼朝の乳母比企尼の養子比企能員は頼朝側近として、後には娘の若狭局が二代将軍頼家に嫁ぎ男子一幡（公暁と兄弟)を得て、権勢をふるった。頼朝が重病となり北条時政らと争い、比企一族滅亡した。比企一族の屋敷跡に、日蓮に帰依した能員の末子である能本が建てた寺が妙本寺である。日蓮の弟子日朗はここを中心に布教を行った。祖師堂は天保年間に再建されたもので、日法が造像したとされる一木造の日蓮像を扉のガラス越しに窺った。左手の階段の上方には頼家の娘で第４代将軍藤原頼経の妻、媄子の墓がある。境内には比企一族の墓や一幡の袖塚などもある。頼家の側室であった若狭局が、家宝を抱えて自害したと伝えられている蛇形井は、大町にある六方井と通じているといわれる。

次の常栄寺は慶長 11 年(1606)に日昭が創設した。この地の山上に住んでいた武士の後家尼が、文永 8 年(1271)龍ノ口刑場にひかれていく日蓮に、胡麻のぼたもちを捧げたという故事が伝えられている。それに因んで、ぼたもち寺と称される。常栄寺の名称も尼の法名である妙常日栄からとられている。

次は妙法寺に寄る。日蓮が草庵を結んだ地で、後に対立者の焼き討ちにあった松葉ガ谷法難の舞台になったところである。門前から拝観したのみで昼食場所の大町ふれあい会館に向かった。

昼食後は安国論寺へ。日蓮が修行されたとする御法窟があり、ここで立正安国論が書かれたとされる。日蓮の第一の弟子、日郎が法窟の傍に安国論窟寺を建てたのが始まりで、その後、池上本門寺十一世日現が要法寺を建て、後に二寺が一つになり安国論寺と呼ばれるようになった。境内の御小庵は焼き討ちされた日蓮の草庵の跡に建てたといわれる。松葉ガ谷法難の際、最初に避難した岩穴と伝わる南面窟を訪ねた後、裏山に上がる。険しい尾根道の傍らに立正安国の梵鐘があり、富士山を望める場所もあった。

最後は長勝寺へ、領主石井長勝が日蓮に帰依し自邸を本圀寺という寺にした。室町時代初期に寺が京都に移された後、日静が復興し長勝寺と名付けた。境内には鎌倉時代特有の五間堂という貴重な様式の室町時代建築の法華三昧堂(祖師堂)がある。帝釈堂(本堂)には帝釈天が祀られる。毎年 2 月 11 日に行われる大圀祈祷成満祭では、裸の修行僧が頭から冷水を浴びる水行を行い鎌倉の風物詩とされる。

参加者の状況・意見など：

本日は日蓮と法華経のテーマ、妙本寺では時間をかけた丁寧な説明があり良かった。最後に班の順路に違いが出たことは反省事項であるが、今月も無事巡拝を終了したことに感謝したい。

次回の予定：

11 月 2 日（木）　10：00　大船駅笠間口　　今泉・岩瀬(白山神社、称名寺など)